

埼玉県ケアラー支援計画のための ケアラー実態調査結果 (地域包括支援センター)

(内容)

1. ケアラーの属性
2. 被介護者の属性
3. ケアの状況
4. ケアの影響
5. ケアラーが抱える悩みと必要な支援
6. その他

ケアラー実態調査の目的・内容及び分析方法

調査目的及び主な調査内容

【調査目的】

・ケアの状況、ケアラーへの影響、困りごと、支援ニーズ等を把握し計画の策定に役立てる。

【主な調査項目】

・ケアラー自身について ・ケアの状況について ・ケアの影響について ・ケアに関する相談について
・求める支援について など

【調査区域】

・埼玉県全域

【調査対象】

・地域包括支援センターを利用している介護者（ケアラー）。1か所につき5人。
・地域包括支援センター283か所×5人 = 1,415人

【回答者数】

・1,022人（回収率：72.2%）

分析方法

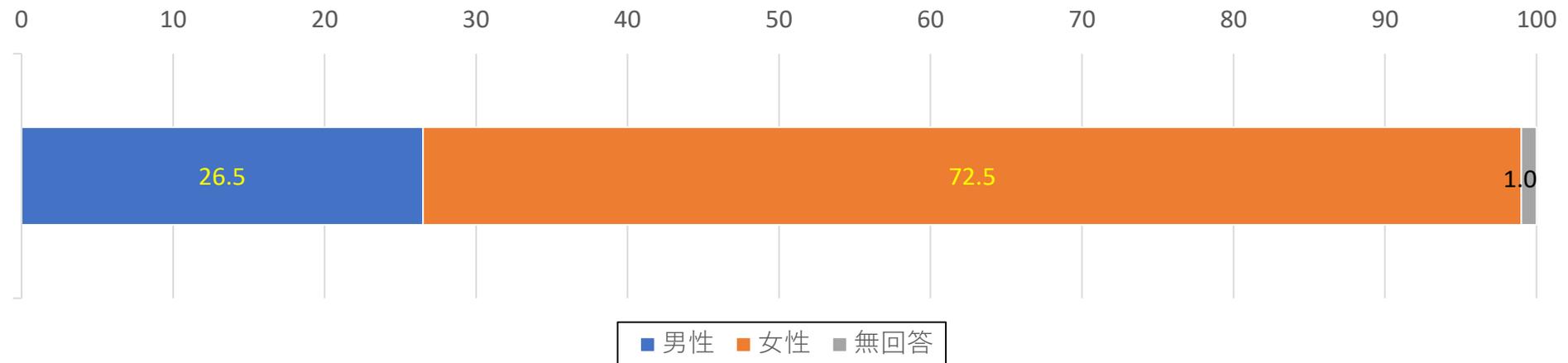
- 調査票各設問の単純集計及びクロス集計を行い、実態調査結果に関する詳細な分析を行った。
- クロス集計は、被介護者の情報が確認できたデータを用いて行った。
- 設問の内、ケアラーがケアする被介護者に関する事項に関する設問を集計する際は、被介護者（1,146人）毎に集計を行った。

1.ケアラーの属性

1-1 ケアラーの性別

- ケアラー本人（N=1,022）の性別の構成割合をみると、「男性」26.5%、「女性」72.5%、「無回答」1.0%であった。

図表1-1. ケアラーの性別の割合



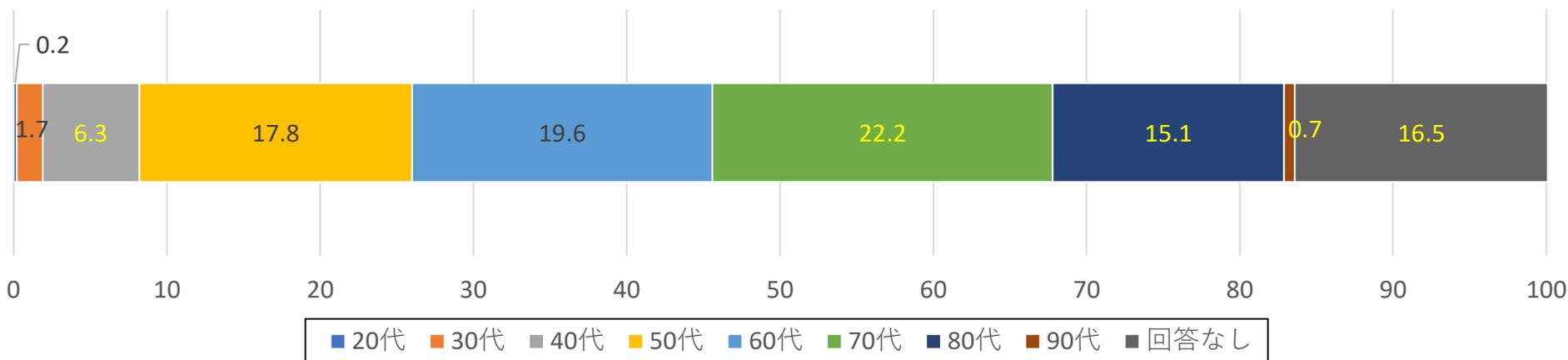
	男性	女性	その他	無回答
ケアラー総数 (N=1,022)	271	741	0	10
割合 (%)	26.5	72.5	0.0	1.0

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

1-2 ケアラーの年齢

- ケアラー（N=1,022）の年齢の構成割合をみると、「70代」（N=227）が22.2%で最も高く、次いで「60代」（N=200）が19.6%、「50代」（N=182）が17.8%の順であった。（平均：66.4歳）

図表1-2. ケアラーの年齢の割合



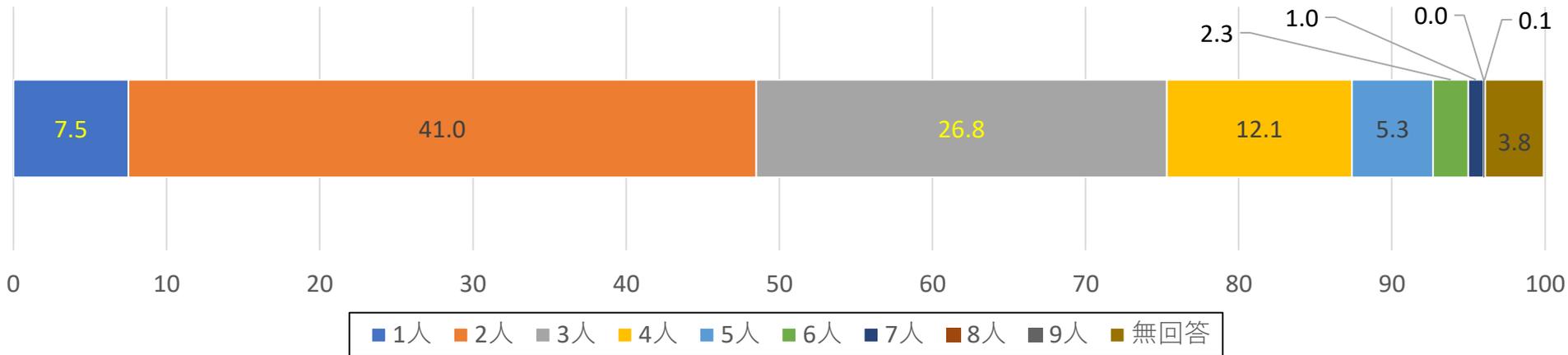
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	回答なし
ケアラー総数 (N=1,022)	2	17	64	182	200	227	154	7	169
割合 (%)	0.2	1.7	6.3	17.8	19.6	22.2	15.1	0.7	16.5

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

1-3 ケアラーの同居家族

- ケアラー（N=1,022）の同居人数（自身を含む）の構成割合をみると、「2人」（N=419）が41.0%で最も高く、次いで「3人」（N=274）が26.8%、「4人」（N=124）が12.1%の順であった。

図表1-3. ケアラーの同居人数の割合



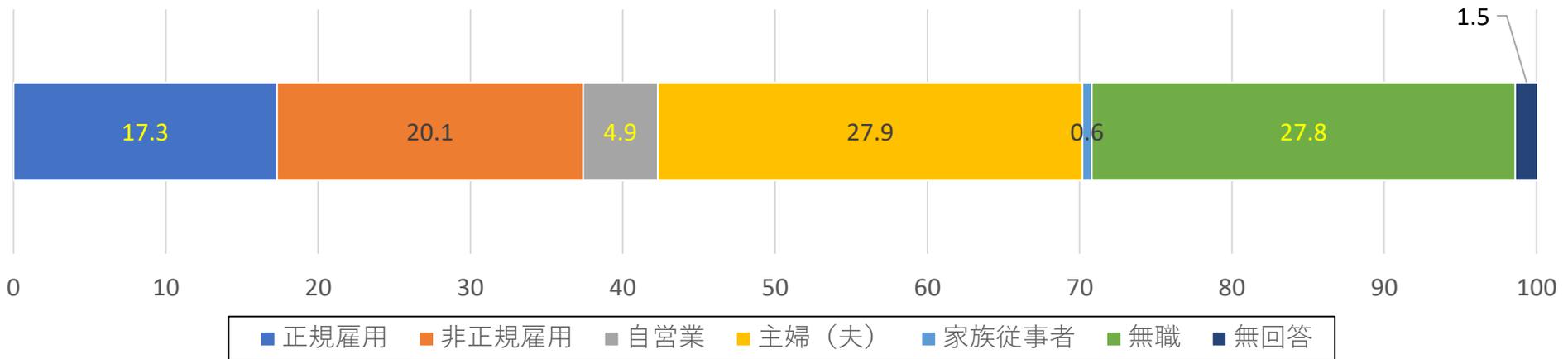
	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	回答なし
ケアラー総数 (N=1022)	77	419	274	124	54	24	10	0	1	39
割合 (%)	7.5	41.0	26.8	12.1	5.3	2.3	1.0	0.0	0.1	3.8

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

1-4 ケアラーの就労状況等

●ケアラー（N=1,022）の就労状況等の構成割合をみると、「主婦（夫）」（N=285）が27.9%で最も高く、次いで「無職」（N=284）が27.8%、「非正規雇用」（N=205）が20.1%の順であった。

図表1-4. ケアラーの就労状況等の割合



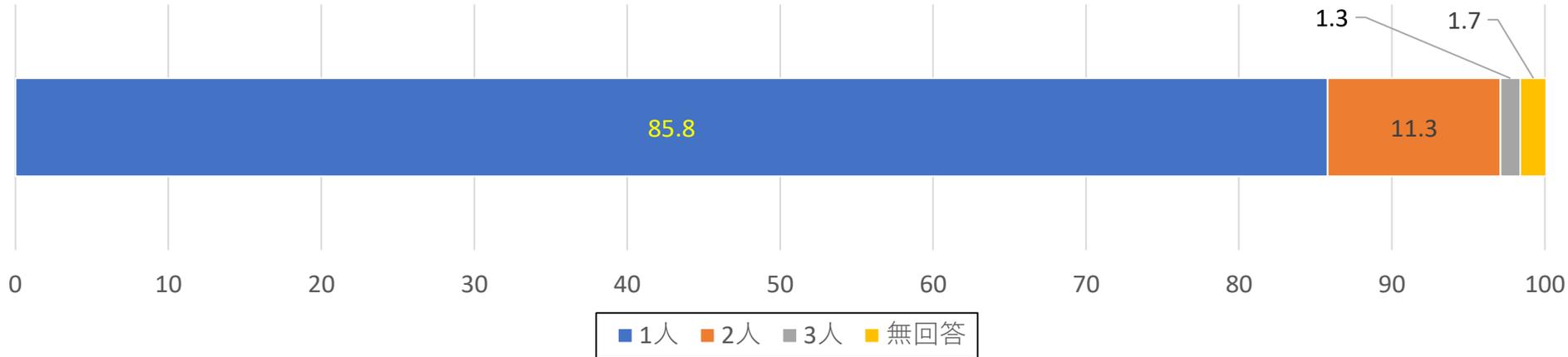
	正規雇用	非正規雇用	自営業	主婦(夫)	家族従業者	無職	回答なし
ケアラー総数 (N=1022)	177	205	50	285	6	284	15
割合 (%)	17.3	20.1	4.9	27.9	0.6	27.8	1.5

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

1 - 5 ケアラーがケアしている人数

- ケアラー（N=1,022）のケアしている人数（被介護者人数）の構成割合をみると、「1人」（N=877）が85.8%で最も高く、次いで「2人」（N=115）が11.3%、「3人」（N=13）が1.3%の順であった。

図表1-5. ケアラーのケアしている人数の割合



	1人	2人	3人	回答なし
ケアラー総数 (N=1022)	877	115	13	17
割合 (%)	85.8	11.3	1.3	1.7

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

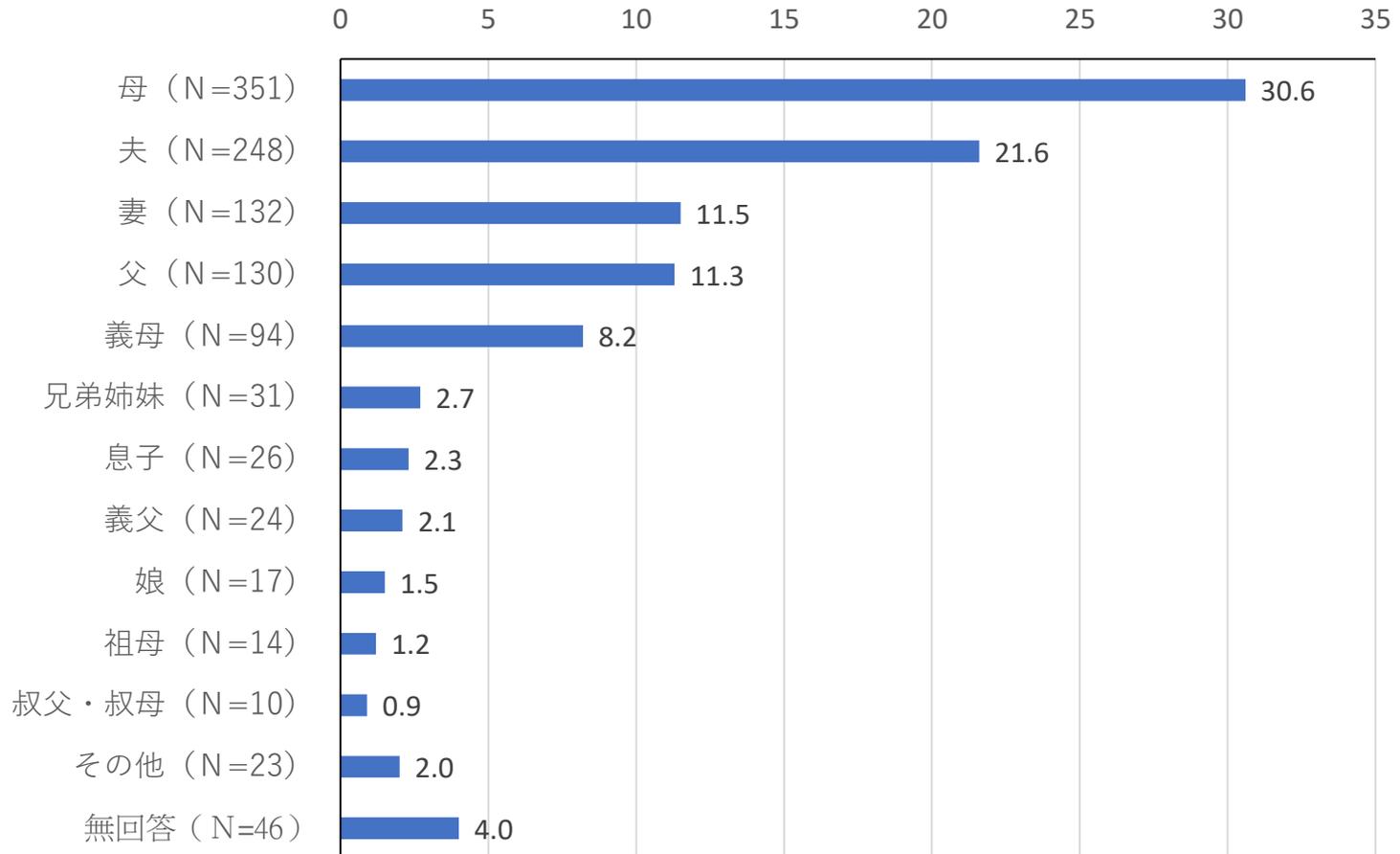
2.被介護者の属性

2-1 被介護者の続柄

- 被介護者（N=1,146）のケアラーとの続柄の構成割合をみると、「母」（N=351）が30.6%で最も高く、次いで「夫」（N=248）が21.6%、「妻」（N=248）が11.5%の順であった。

図表2-1. 被介護者の続柄（複数回答）

単位：%

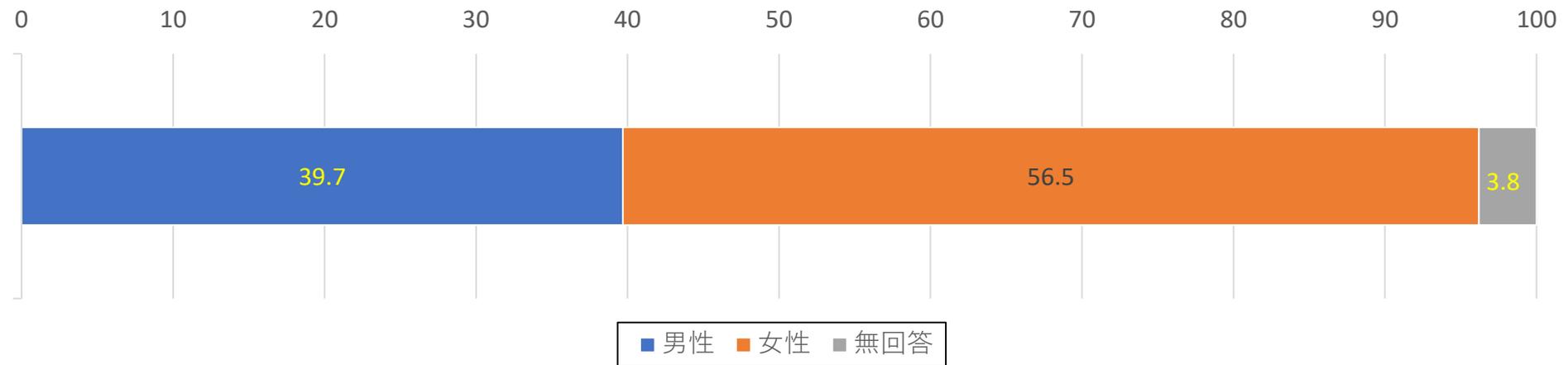


注) 本集計は被介護者数 (1,146人) に対して行われている。

2-2 被介護者の性別

- 被介護者（N=1,146）の性別の構成割合をみると、「男性」（N=455）39.7%、「女性」（N=647）56.5%、「無回答」（N=44）3.8%であった。

図表2-2. 被介護者の性別の割合



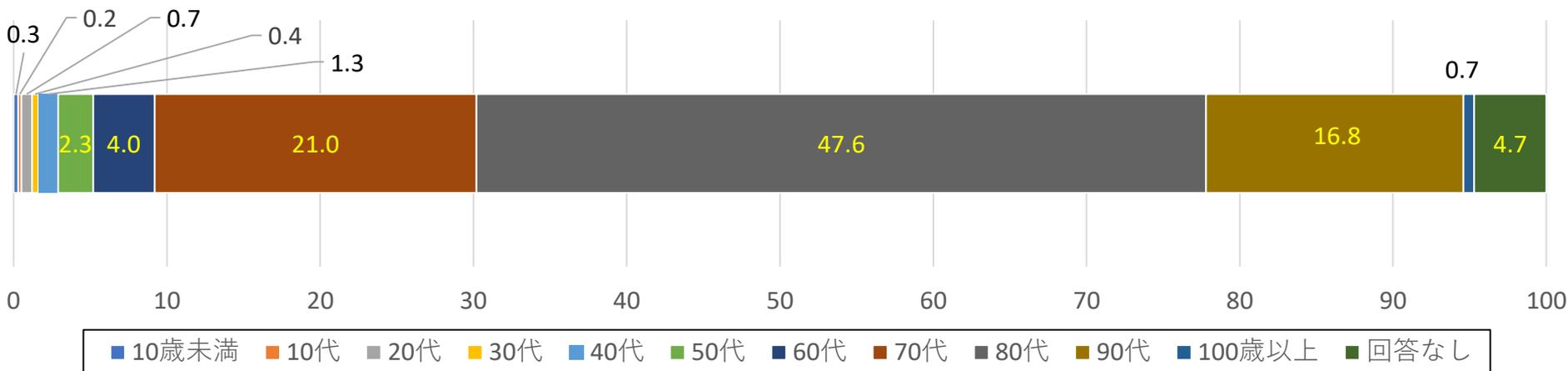
	男性	女性	無回答
被介護者数 (N=1146)	455	647	44
割合 (%)	39.7	56.5	3.8

注) 本集計は被介護者（1,146人）に対して行われている。

2-3 被介護者の年齢

- 被介護者（N=1,146）の年齢の構成割合をみると、「80代」（N=546）が47.6%で最も高く、次いで「70代」（N=241）が21.0%、「90代」、（N=192）が16.8%の順であった。

図表2-3. 被介護者の年齢の割合



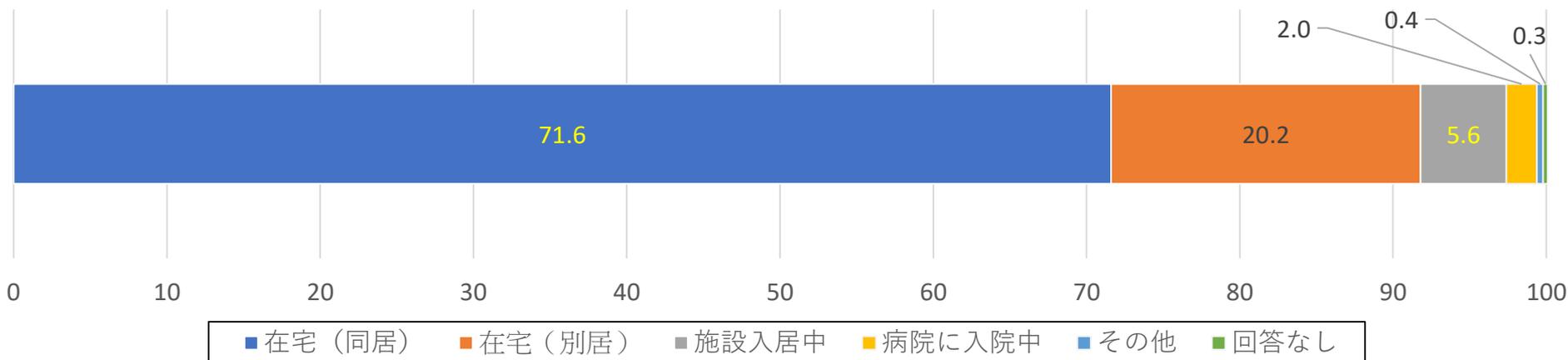
	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	回答なし
被介護者数 (N=1146)	3	2	8	5	15	26	46	241	546	192	8	54
割合 (%)	0.3	0.2	0.7	0.4	1.3	2.3	4.0	21.0	47.6	16.8	0.7	4.7

注) 本集計は被介護者（1,146人）に対して行われている。

2-4 被介護者の生活場所

- 被介護者（N=1,146）の生活場所の構成割合をみると、「在宅（同居）」（N=820）が71.6%で最も高く、次いで「在宅（別居）」（N=231）が20.2%、「施設入居中」（N=64）が5.6%の順であった。

図表2-4. 被介護者の生活場所の割合



	在宅（同居）	在宅（別居）	施設入居中	病院に入院中	その他	回答なし
被介護者数 (N=1146)	820	231	64	23	5	3
割合 (%)	71.6	20.2	5.6	2.0	0.4	0.3

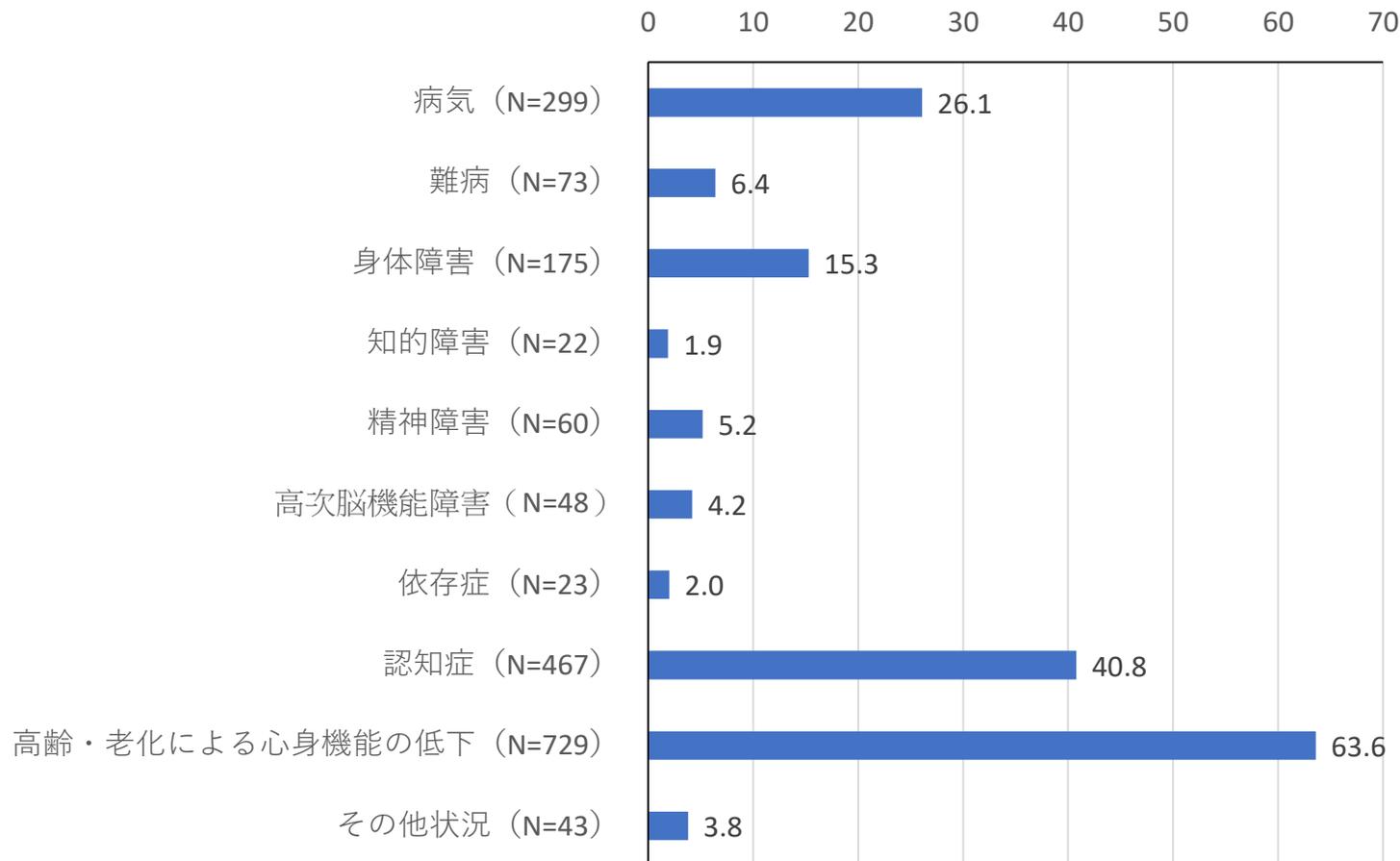
注) 本集計は被介護者（1,146人）に対して行われている。

2-5 被介護者の状況

- 被介護者の状況（N=1,146）をみると、「高齢・老化による心身機能の低下」（N=729）が63.6%で最も高く、次いで「認知症」（N=467）が40.8%、「病気」（N=299）が26.1%、「身体障害」（N=175）が15.3%の順であった。

図表2-5. 被介護者の状況（複数回答）

単位：%



注) 本集計は被介護者数 (1,146人) に対して行われている。

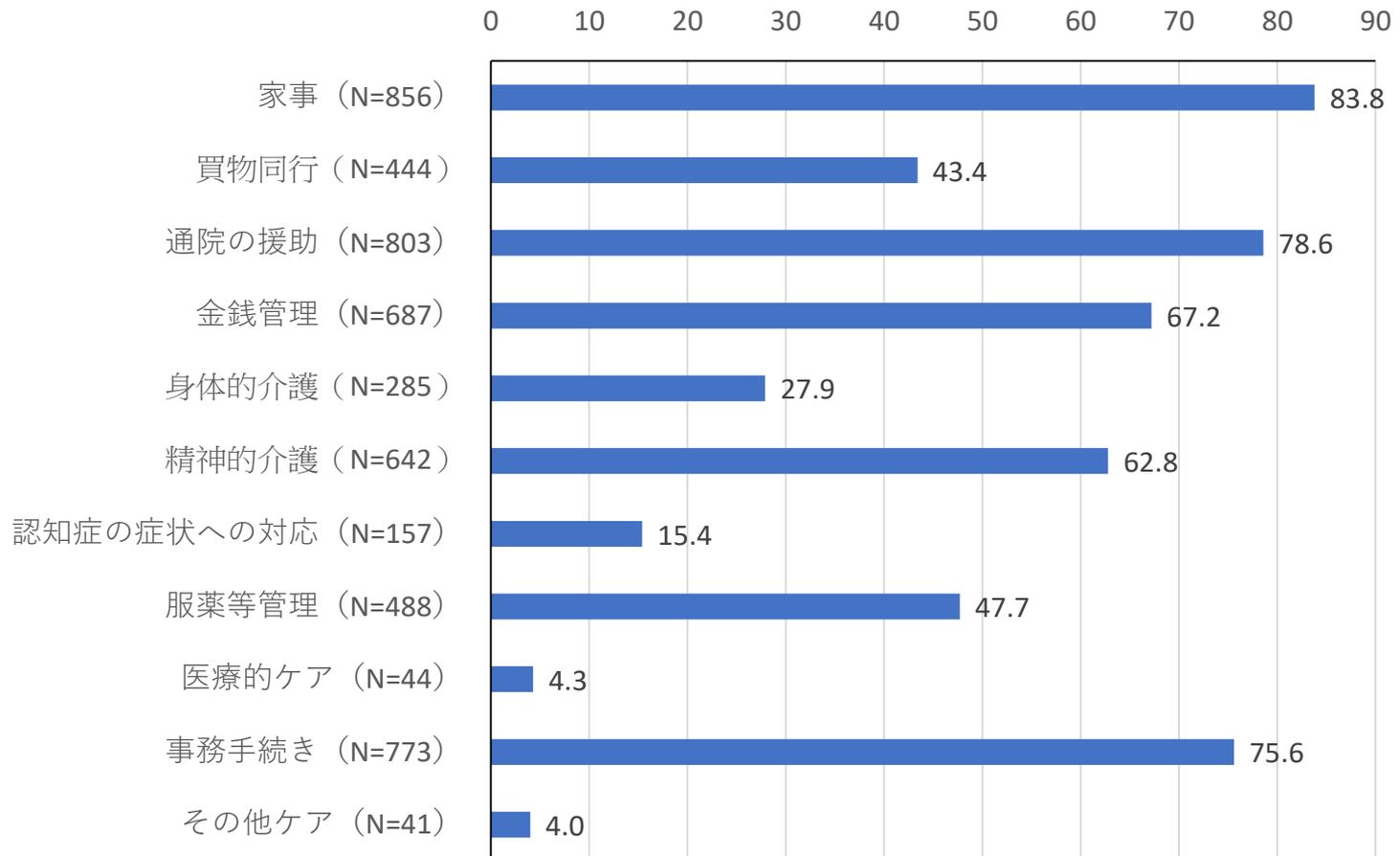
3.ケアの状況

3-1 ケアの内容

- ケアラーから見たケアの内容をみると（N=1,022）、「家事」（N=856）が83.8%で最も高く、次いで「通院の援助」（N=803）が78.6%、「事務手続き」（N=773）が75.6%、「金銭管理」（N=687）が67.2%の順であった。

図表3-1. ケアラーにおけるケアの内容（複数回答）

単位：%

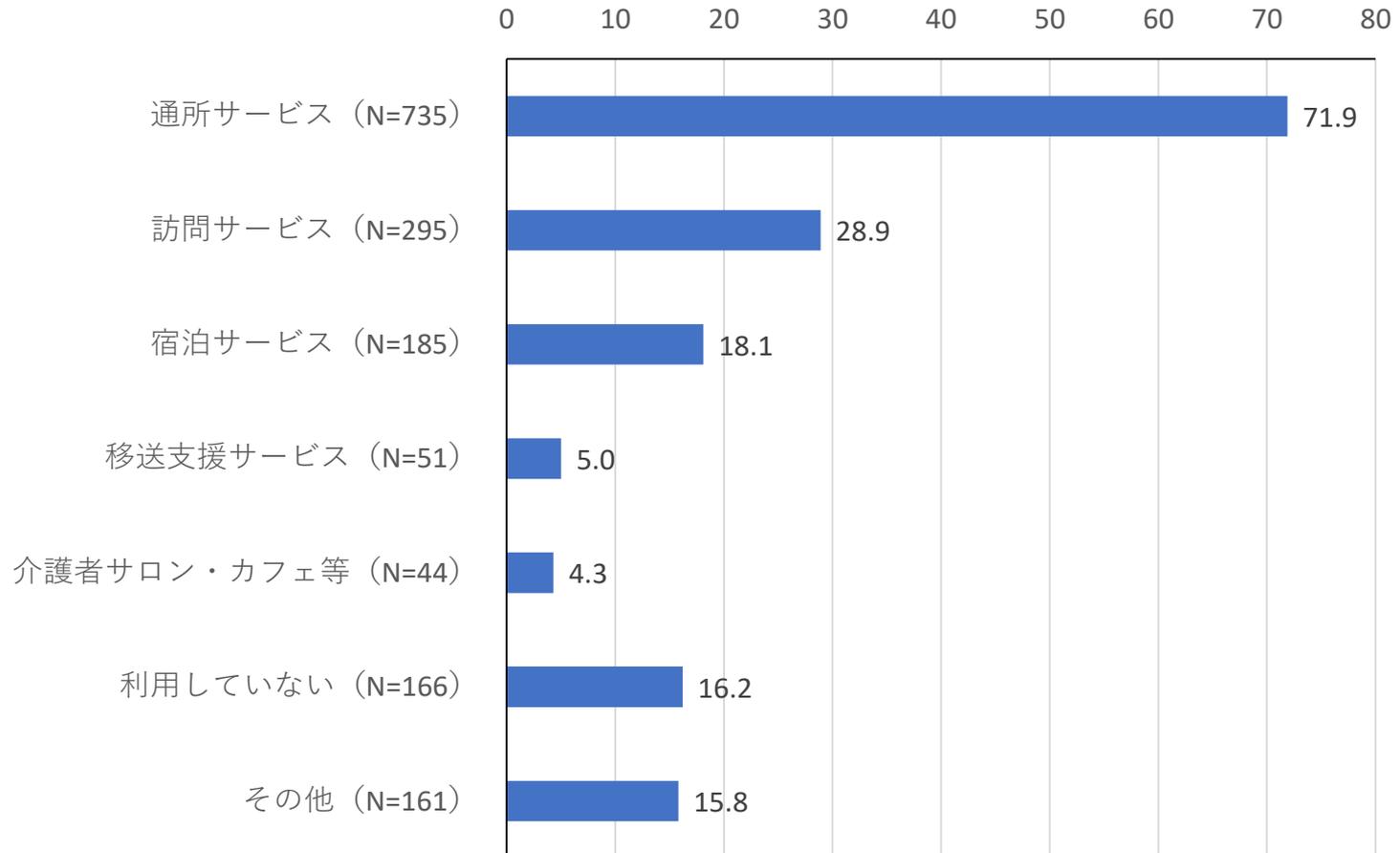


3-2 利用している（していた）サービス

- 利用している（していた）サービス（N=1,022）をみると、「通所サービス」（N=735）が71.9%で最も高く、次いで「訪問サービス」（N=295）が28.9%、「宿泊サービス」（N=185）が18.1%、「利用していない」（N=166）が16.2%の順であった。

図表3-2.利用している（していた）サービス（複数回答）

単位：%



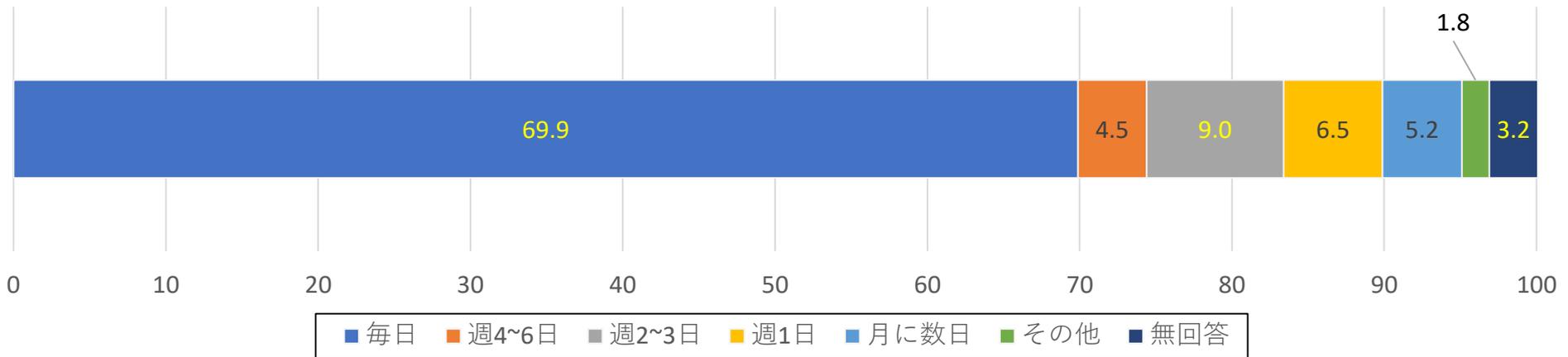
注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

© 2020 Saitama Prefecture. All Rights Reserved.

3-3 ケアラーのケアの頻度

- ケアラー（N=1,022）のケアの頻度をみると、「毎日」（N=714）が69.9%で最も高く、次いで「週2~3日」（N=92）が9.0%、「週1日」（N=66）が6.5%の順であった。

図表3-3. ケアの頻度の割合



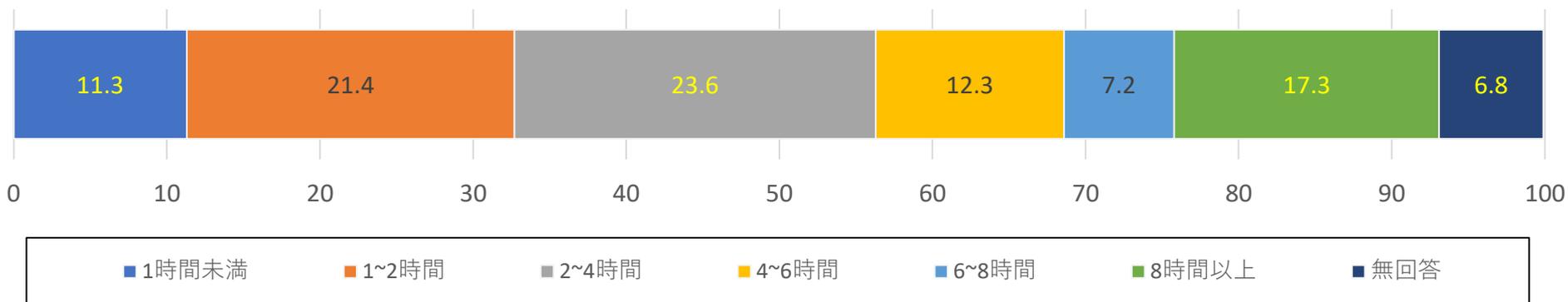
	毎日	週4~6日	週2~3日	週1日	月に数日	その他	無回答
ケアラー総数 (N=1,022)	714	46	92	66	53	18	33
割合 (%)	69.9	4.5	9.0	6.5	5.2	1.8	3.2

注) 本集計はケアラー本人（1,022人）に対して行われている。

3-4 ケアにかかる時間

- ケアにかかる時間（N=1,022）の構成割合をみると、「2時間以上4時間未満」（N=241）が23.6%で最も高く、次いで「1時間以上2時間未満」（N=219）が21.4%、「8時間以上」（N=177）が17.3%であった。

図表3-4. ケアにかかる時間の割合

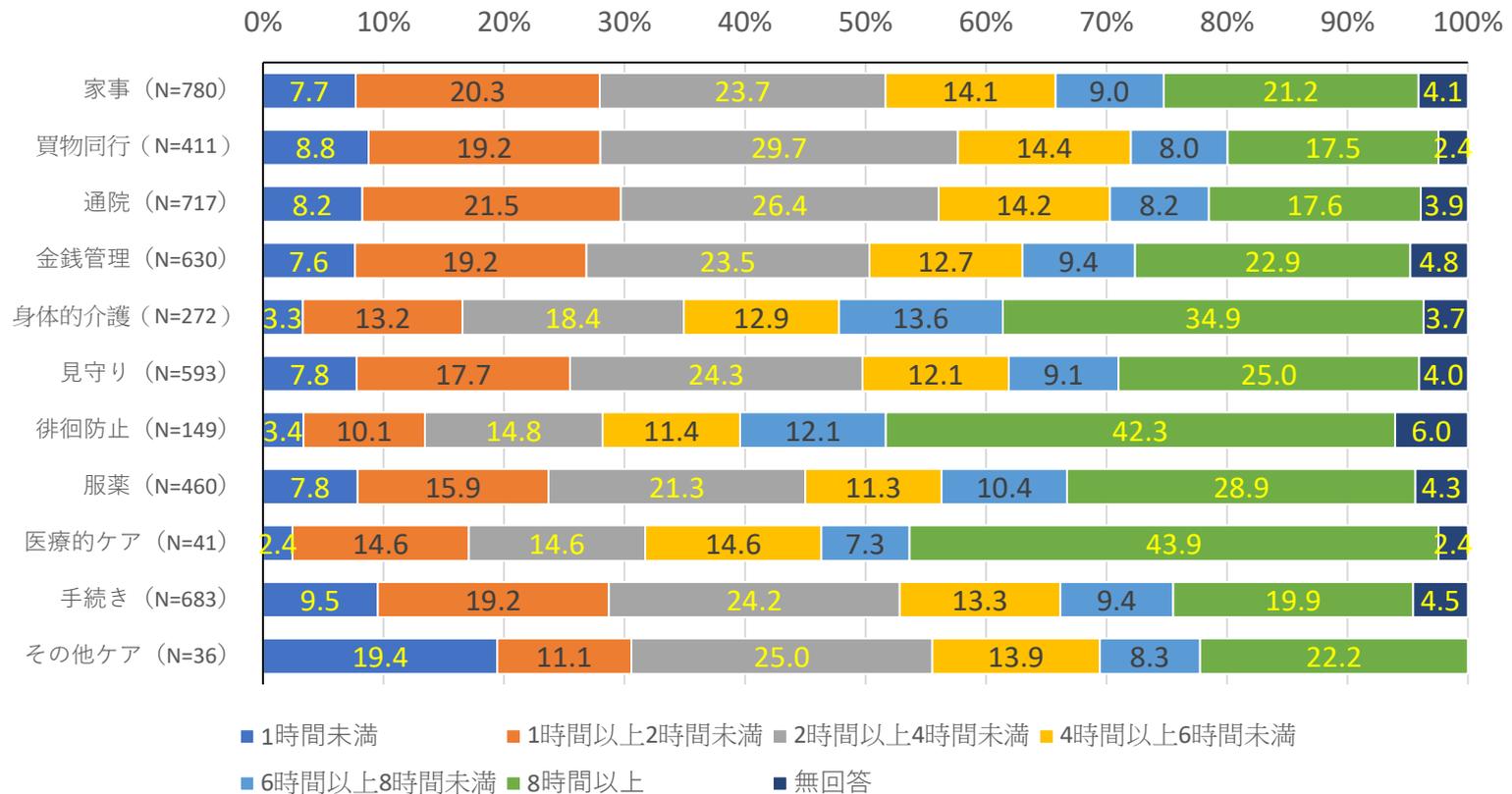


	1時間未満	1時間以上 2時間未満	2時間以上 4時間未満	4時間以上 6時間未満	6時間以上 8時間未満	8時間以上	無回答
ケアラー総数 (N=1,022)	115	219	241	126	74	177	70
割合 (%)	11.3	21.4	23.6	12.3	7.2	17.3	6.8

3-4-1 ケアの内容別にみたケアにかかる時間

- ケアの内容別にケアにかかる時間をみると、「徘徊防止」と「医療的ケア」では「8時間以上」と回答した割合が4割を超えていた。「6時間以上」と回答している割合は、「徘徊防止」、「医療的ケア」、「身体介護」の順に高かった。

図表3-4-1. ケアの内容別にみたケアにかかる時間

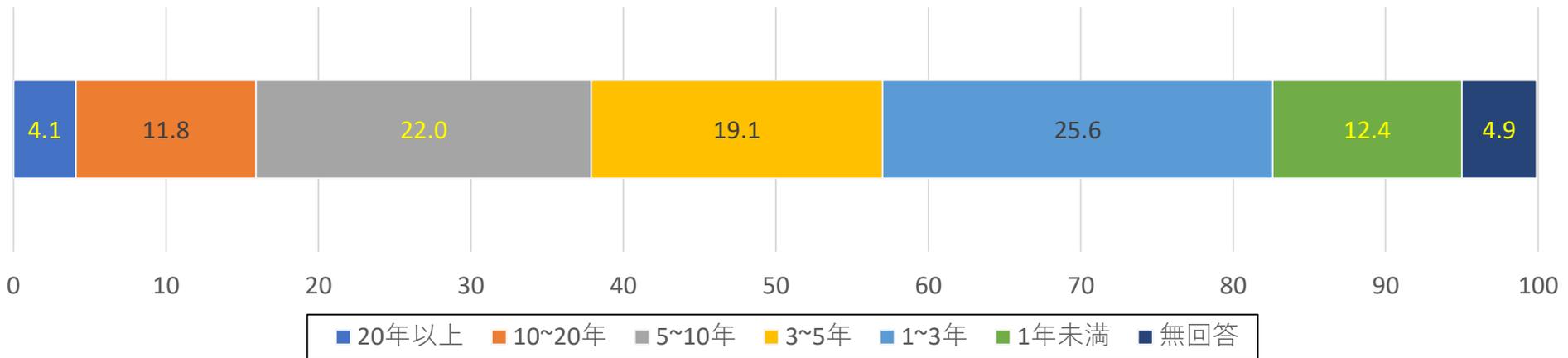


注) 本集計はケアラー本人 (1,022人)のうち、被介護者の何らかの情報が確認できた人 (1,000人) に対して行われている。

3-5 ケアの期間

- ケアの期間（N=1,022）の構成割合をみると、「1～3年」（N=262）が25.6%で最も高く、次いで「5～10年」（N=225）が22.0%、「3～5年」（N=195）が19.1%の順であった。

図表3-5. ケアの期間の割合



	20年以上	10~20年	5~10年	3~5年	1~3年	1年未満	無回答
ケアラー総数 (N=1,022)	42	121	225	195	262	127	50
割合 (%)	4.1	11.8	22.0	19.1	25.6	12.4	4.9

注) 本集計はケアラー本人(1,022人)に対して行われている。

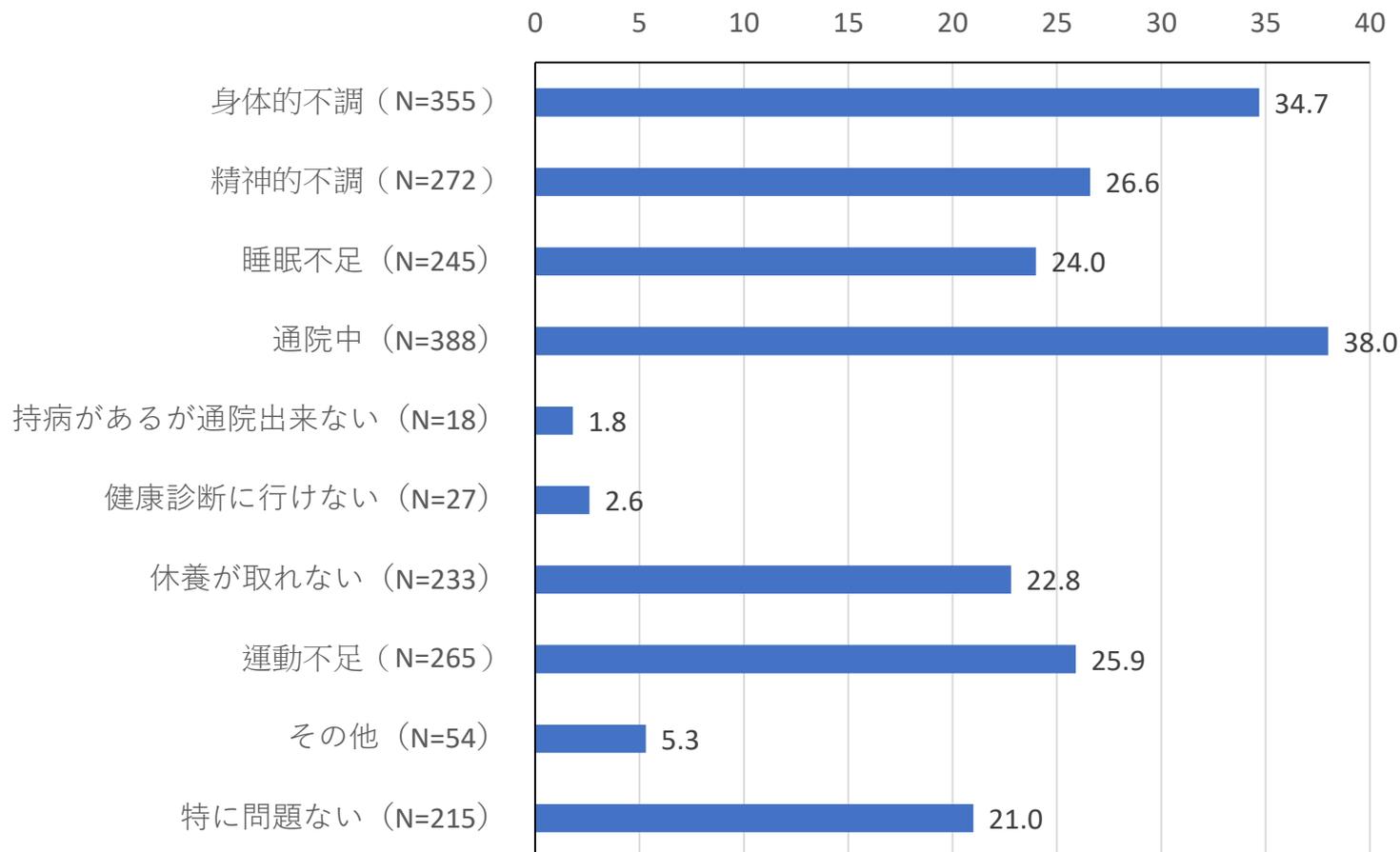
4. ケアの影響

4-1 ケアラー本人の健康状態

- ケアラー本人の健康状態（N=1,022）をみると、「通院中」（N=388）が38.0%で最も高く、次いで「身体的不調」（N=355）が34.7%、「精神的不調」（N=272）が26.6%、「運動不足」（N=265）が25.9%の順であった。

図表4-1.ケアラー本人の健康状態（複数回答）

単位：%



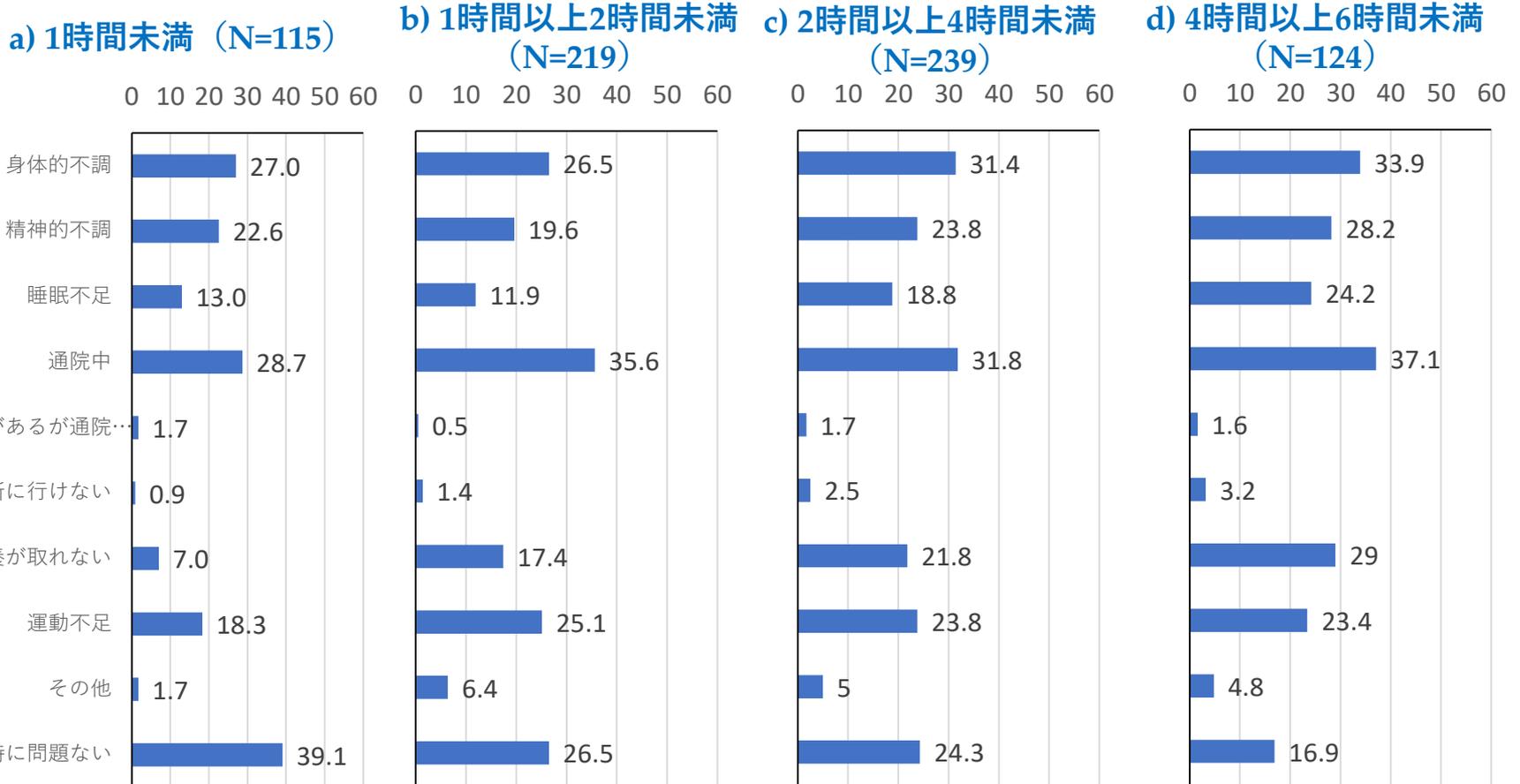
注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

4-1-1 ケアにかける時間別にみた健康状態

● ケアにかける時間別に健康状態をみると、「1時間未満」、「8時間以上」以外のすべての項目で「通院中」と答えたものが、最も多かった。「1時間未満」は「特に問題ない」、「8時間以上」では「身体的不調」と回答したものが最も多かった。「通院中」以外では、「身体的不調」と回答したものが多かった。

図表4-1-1.ケアにかける時間別にみた健康状態

単位：%



注) 本集計はケアラー本人 (1,022人)のうち、被介護者の何らかの情報が確認できた人 (1,000人) に対して行われている。

4-1-1 ケアにかける時間別にみた健康状態

● ケアにかける時間別に健康状態をみると、「1時間未満」、「8時間以上」以外のすべての項目で「通院中」と答えたものが、最も多かった。「1時間未満」は「特に問題ない」、「8時間以上」では「身体的不調」と回答したものが最も多かった。「通院中」以外では、「身体的不調」と回答したものが多かった。

図表4-1-1.ケアにかける時間別にみた健康状態

単位：%

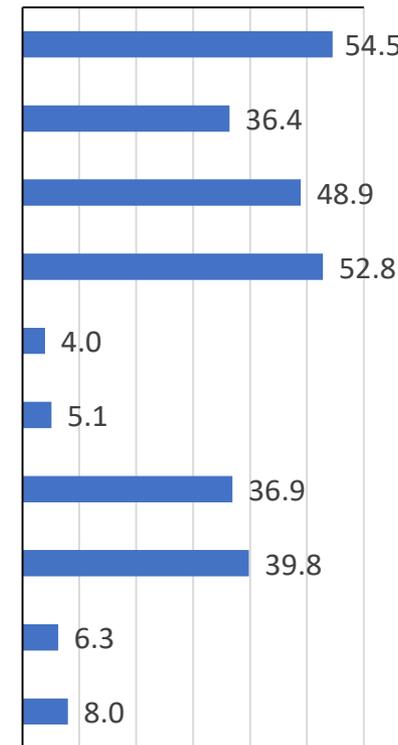
e) 6時間以上8時間未満 (N=74)

0 10 20 30 40 50 60



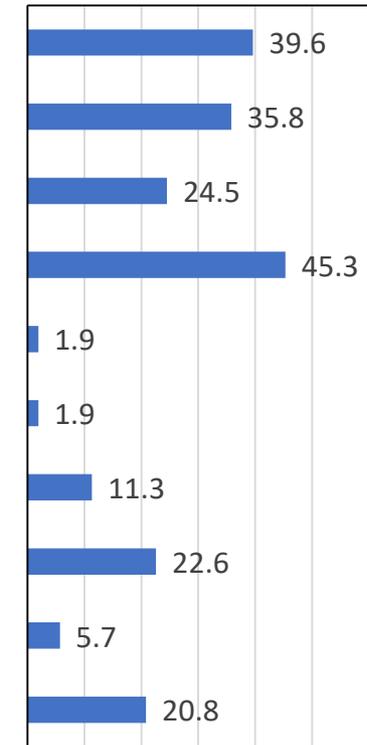
f) 8時間以上 (N=176)

0 10 20 30 40 50 60



g) 無回答 (N=53)

0 10 20 30 40 50 60

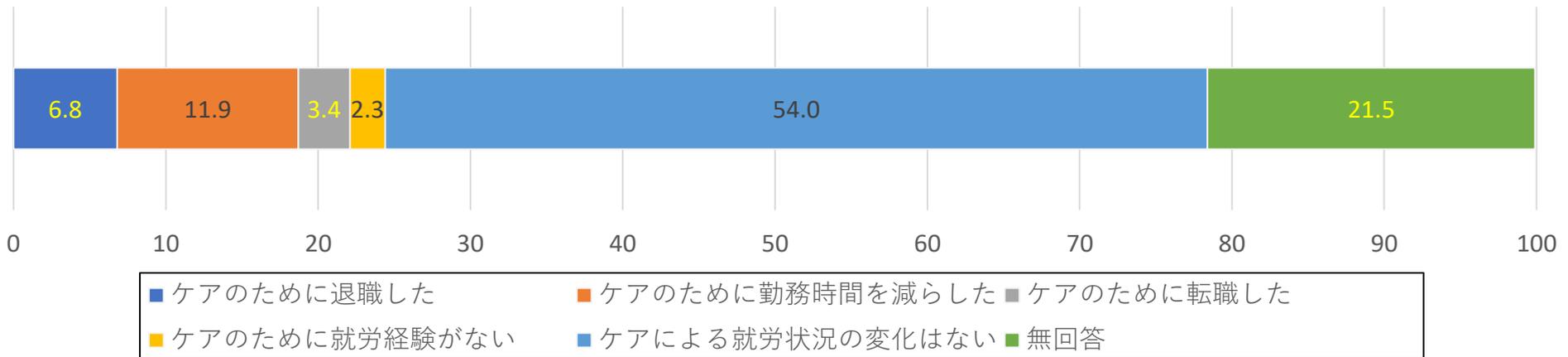


注) 本集計はケアラー本人 (1,022人)のうち、被介護者の何らかの情報が確認できた人 (1,000人) に対して行われている。

4-2 ケアによる就労状況の変化

- ケアによる就労状況の変化（N=1,022）の構成割合をみると、「ケアによる就労状況の変化はない」（N=552）が54.0%で最も高く、次いで「無回答」（N=220）が21.5%、「ケアのために勤務時間を減らした」（N=122）が11.9%、「ケアのために退職した」（N=69）が6.8%の順であった。

図表4-2. ケアによる就労状況の変化の割合



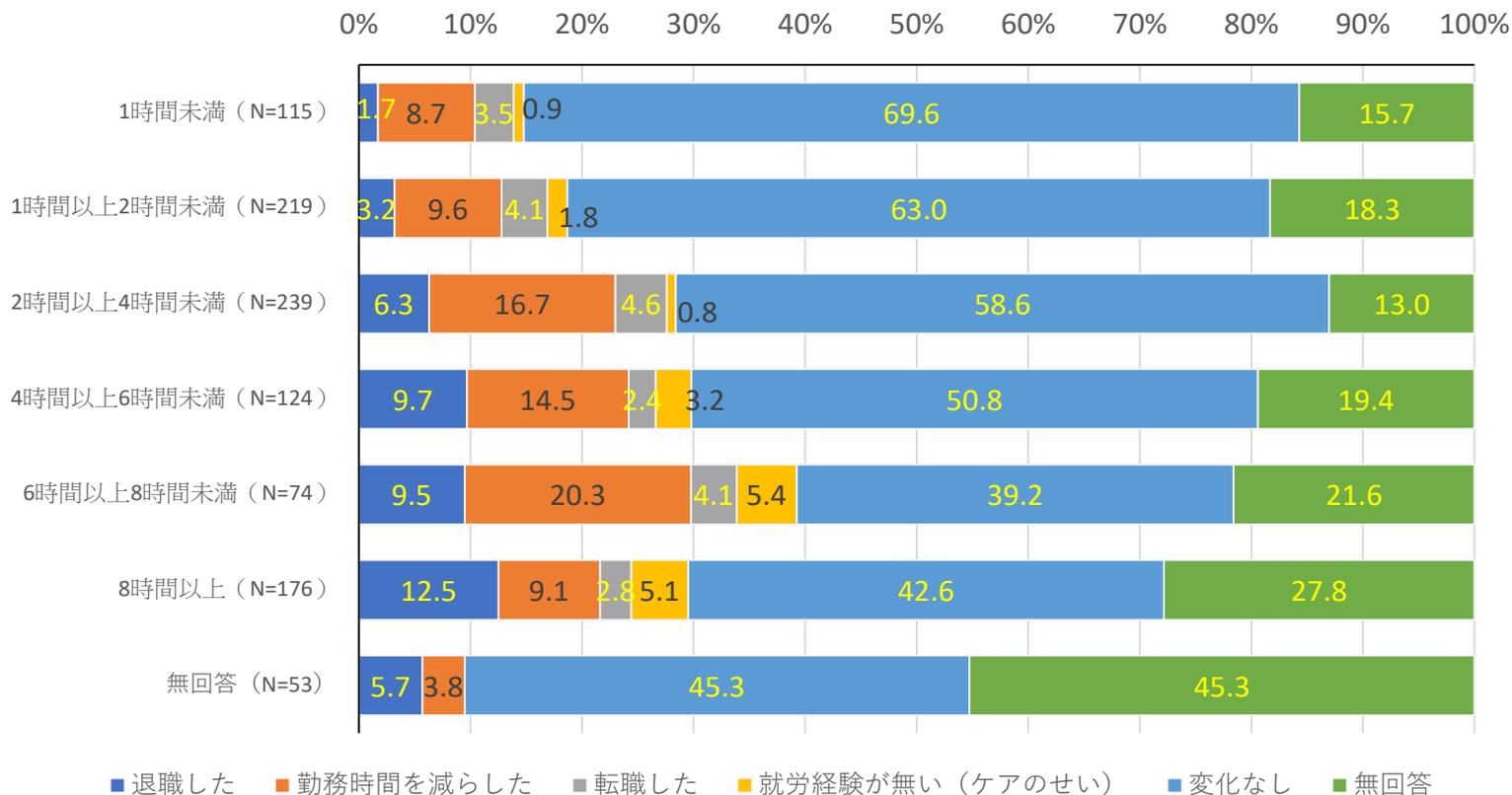
	ケアのために退職した	ケアのために勤務時間を減らした	ケアのために転職した	ケアのために就労経験がない	ケアによる就労状況の変化はない	無回答
ケアラー総数 (N=1,022)	69	122	35	24	552	220
割合 (%)	6.8	11.9	3.4	2.3	54.0	21.5

注) 本集計はケアラー本人（1,022人）に対して行われている。

4-2-1 ケアにかける時間別にみたケアによる就労状況の変化

● ケアにかける時間別にケアによる就労状況の変化をみると、「ケアのために就労状況に変化があった」と回答したものは、「6時間以上8時間未満」、「4時間以上6時間未満」、「8時間以上」の順に多かった。「8時間以上」の区分では、他の区分と比べると「退職した」と回答したものが多く、「6時間以上8時間未満」の区分では「勤務時間を減らした」と回答したものが他の区分と比べて多かった。

図表4-2-1. ケアにかける時間別にみたケアによる就労状況の変化



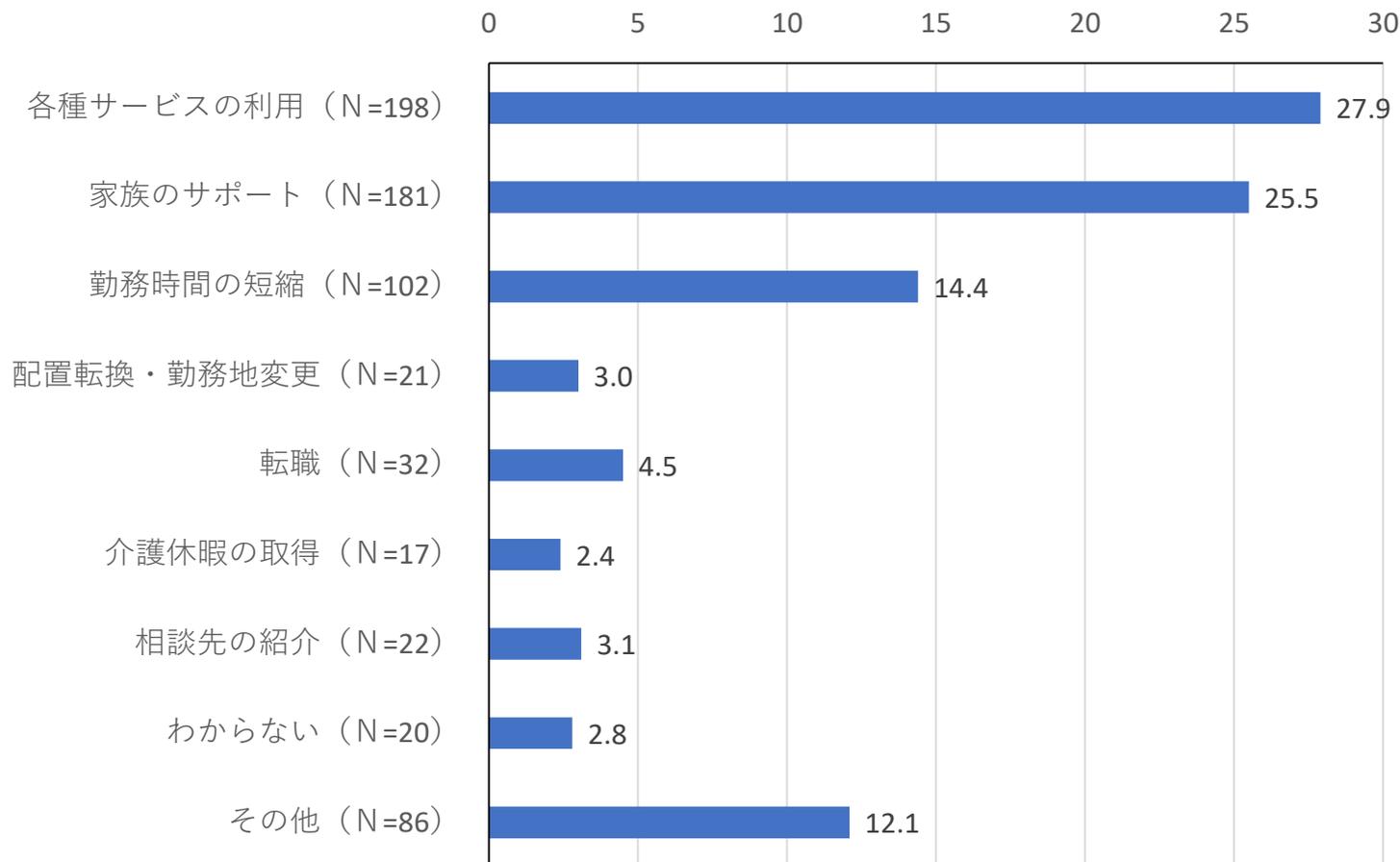
注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) のうち、被介護者の何らかの情報が確認できた人 (1,000人) に対して行われている。

4-3 就労を続けられている理由

- 就労を続けられている理由（N=709）の構成割合をみると、「各種サービスの利用」（N=198）が27.9%で最も高く、次いで「家族のサポート」（N=181）が25.5%、「勤務時間の短縮」（N=102）が14.4%、「その他」（N=86）が12.1%の順であった。

図表4-3. 就労を続けられている理由（複数回答）

単位：%



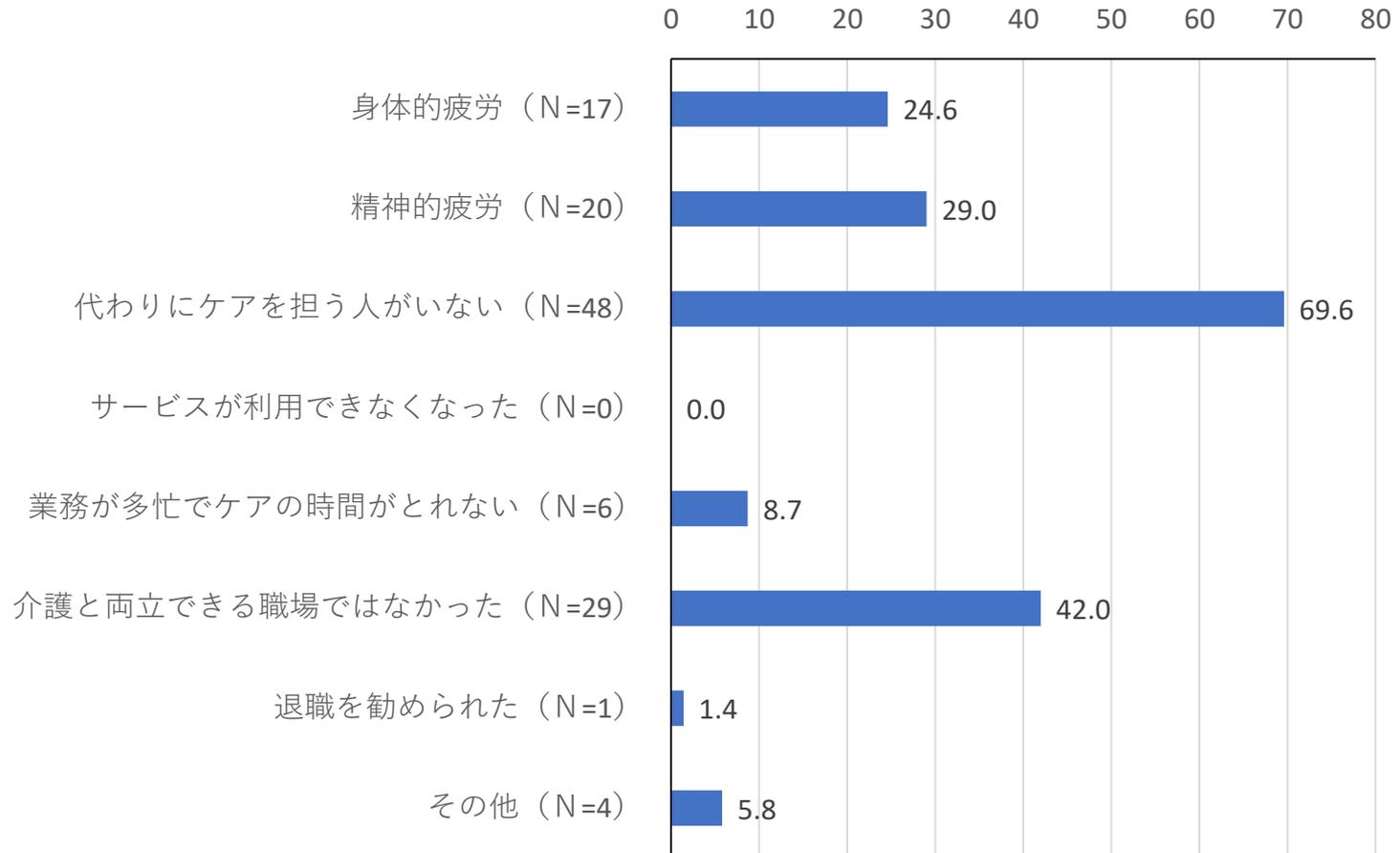
注) 本集計は就労を続けられている方（709人）に対して行われている。

4-4 ケアを機に退職した理由

- ケアを機に退職した理由（N=69）の構成割合をみると、「代わりにケアを担う人がいない」（N=48）が69.6%で最も高く、次いで「介護と両立できる環境でなかった」（N=29）が42.0%、「精神的疲労」（N=20）が29.0%、「身体的疲労」（N=17）が24.6%、の順であった。

図表4-4. 就労を続けられている理由（複数回答）

単位：%



注）本集計はケアを機に退職された方（69人）に対して行われている。

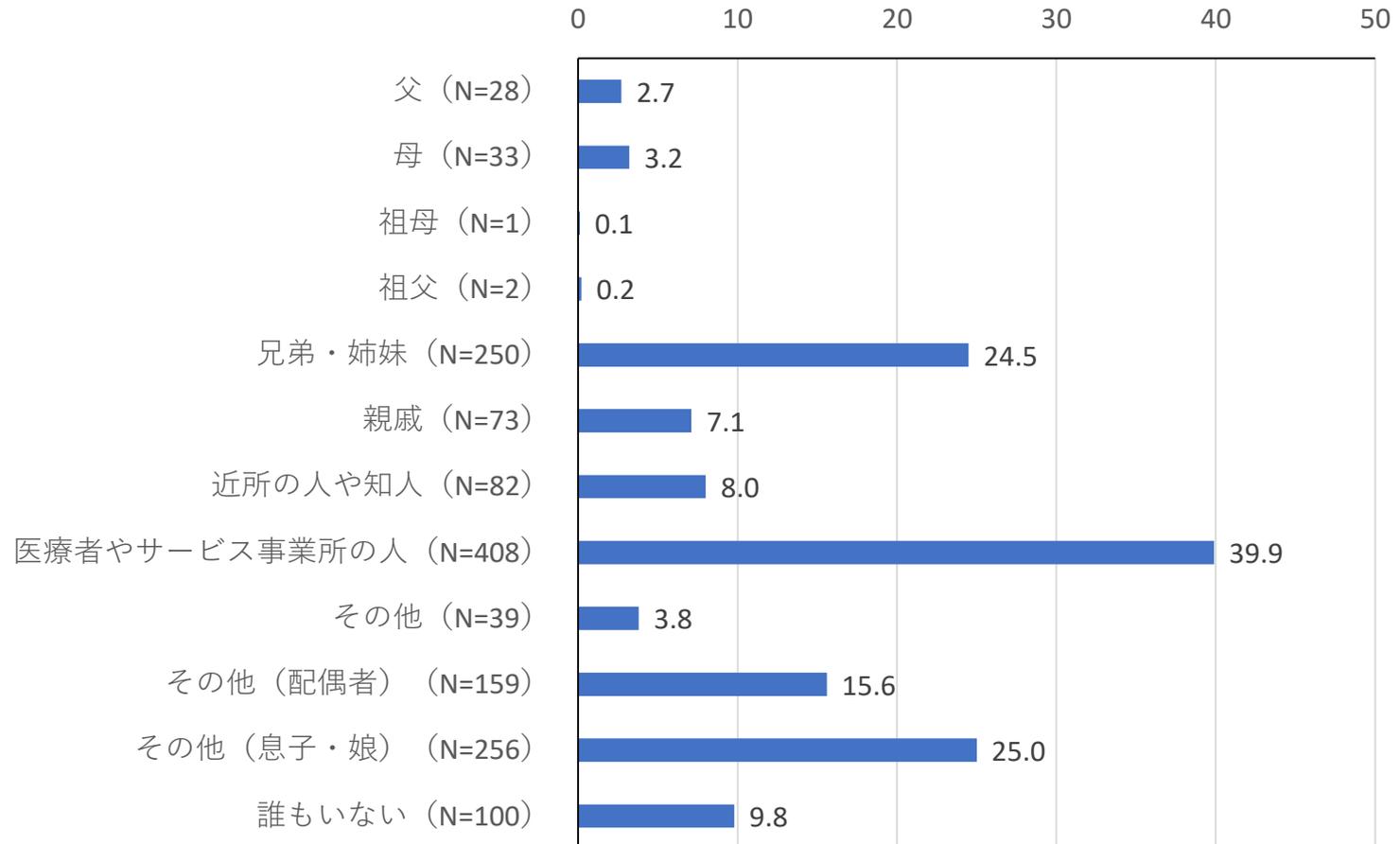
5. ケアラーが抱える悩みと必要な支援

5-1 ケアに協力してくれる人

- ケアに協力してくれる人（N=1,022）をみると、「医療者やサービス事業所の人」（N=408）が39.9%で最も高く、次いで「その他（息子・娘）」（N=256）が25.0%、「兄弟・姉妹」（N=250）が24.5%の順であった。

図表5-1. ケアに協力してくれる人（複数回答）

単位：%



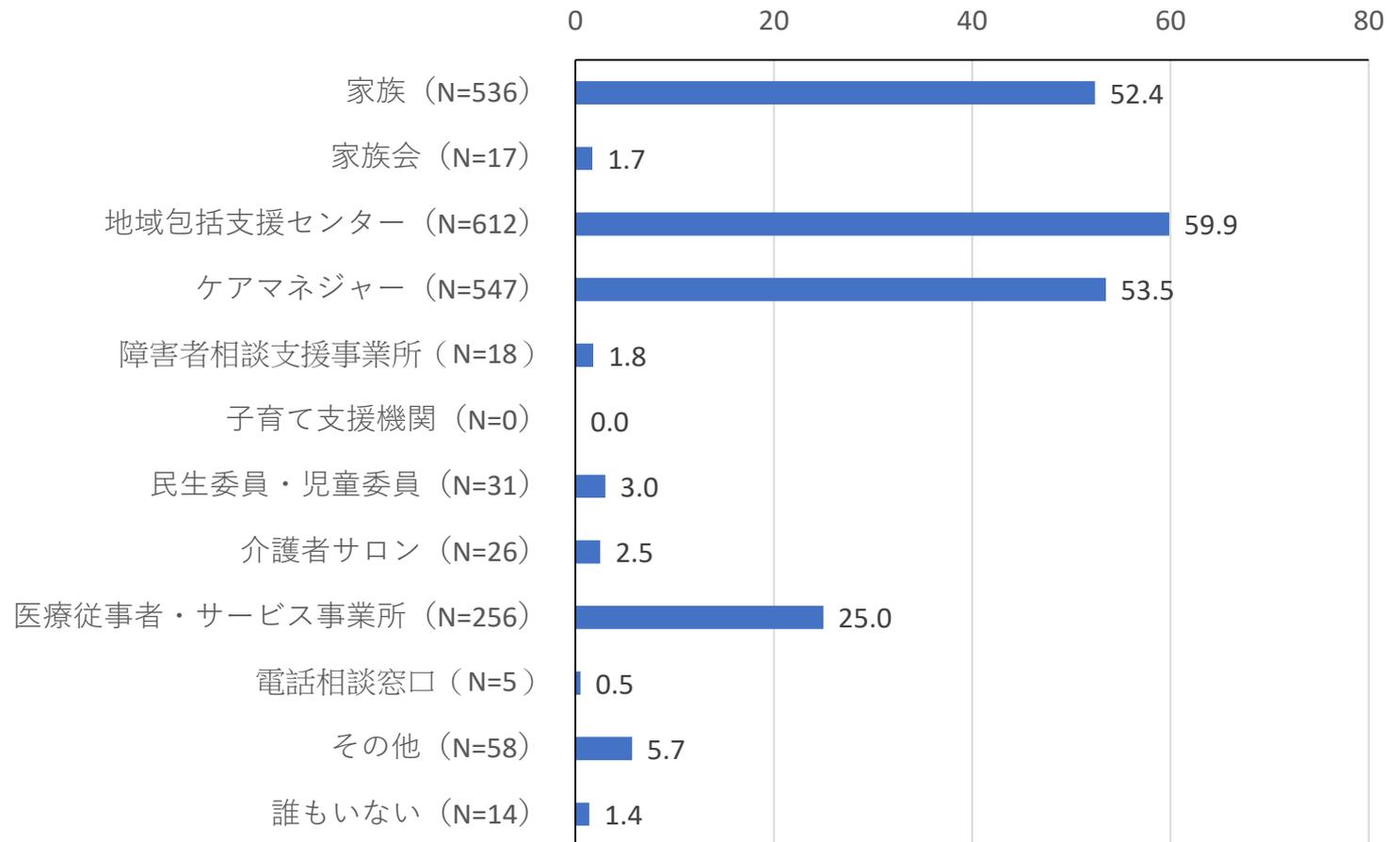
注) 本集計はケアラー本人（1,022人）に対して行われている。

5-2 相談できる人や窓口

- ケアラーが相談できる人や窓口・機関（N=1,022）をみると、「地域包括支援センター」（N=612）が59.9%で最も高く、次いで「ケアマネジャー」（N=547）が53.5%、「家族」（N=536）が52.4%の順であった。

図表5-2. 相談できる人や窓口（複数回答）

単位：%

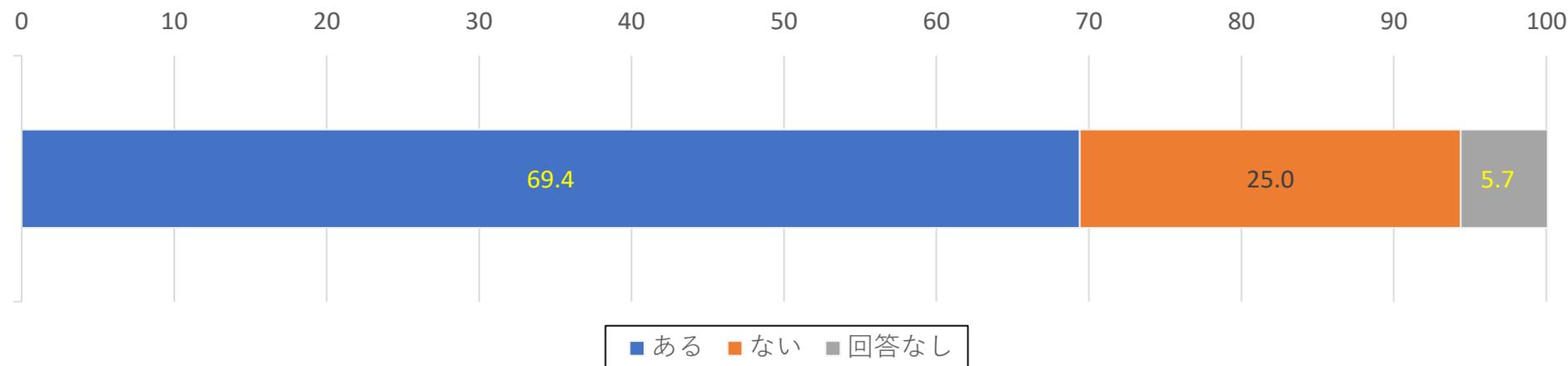


注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

5-3 ケアラーの悩みの有無

- ケアが原因の悩みの有無（N=1,022）の構成割合をみると、「ある」（N=709）69.4%、「ない」（N=255）25.0%、「回答なし」（N=58）5.7%であった。

図表5-3. ケアラーの悩みの有無の割合



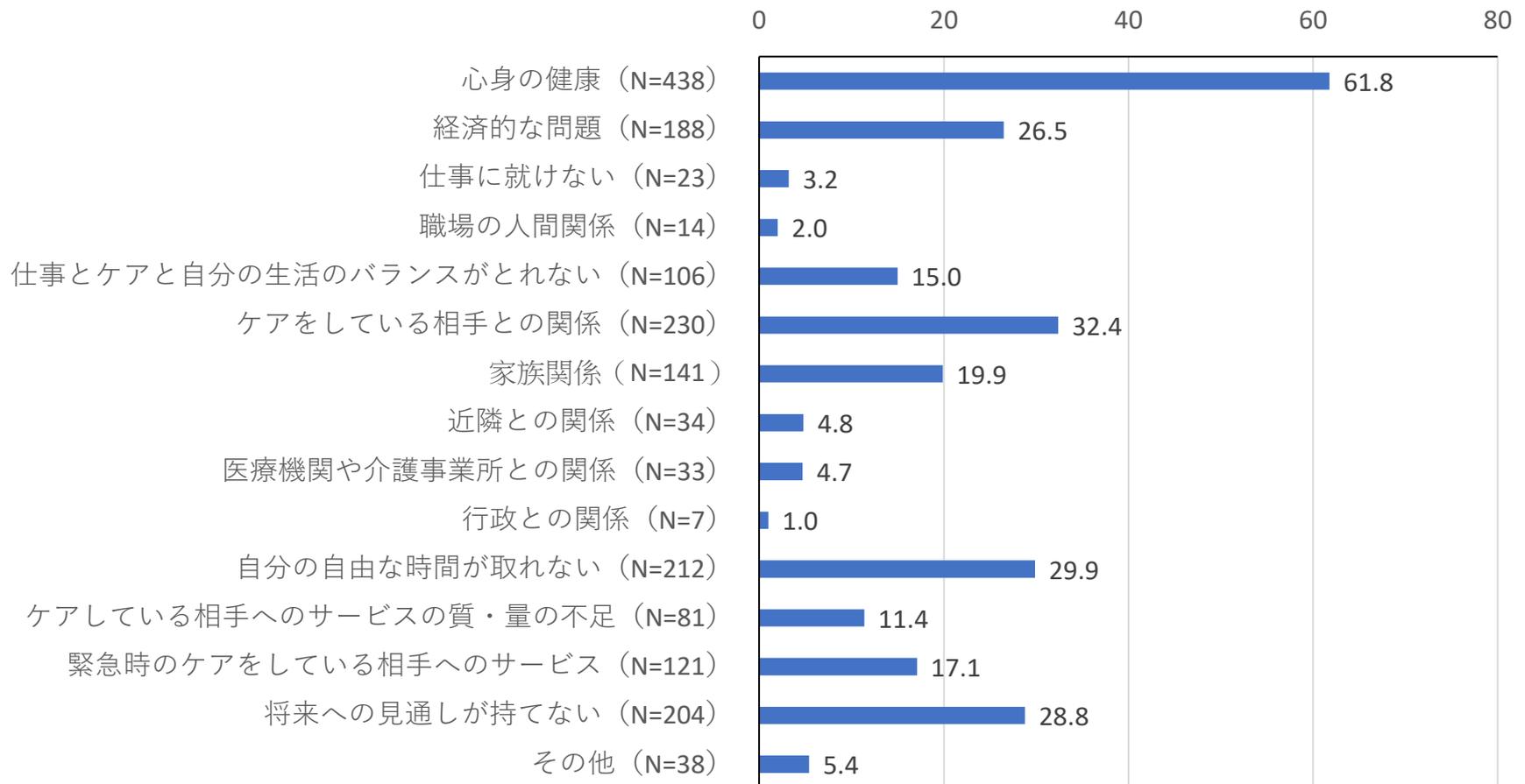
	ある	ない	回答なし
ケアラー総数 (N=1022)	709	255	58
割合 (%)	69.4	25.0	5.7

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

5-4 ケアラーの悩み

- 悩み（N=709）をみると、「心身の健康」（N=438）が61.8%で最も高く、次いで「ケアしている相手との関係」（N=230）が32.4%、「自分の自由な時間が取れない」（N=212）が29.9%の順であった。

図表5-4. ケアラーの悩み（複数回答）

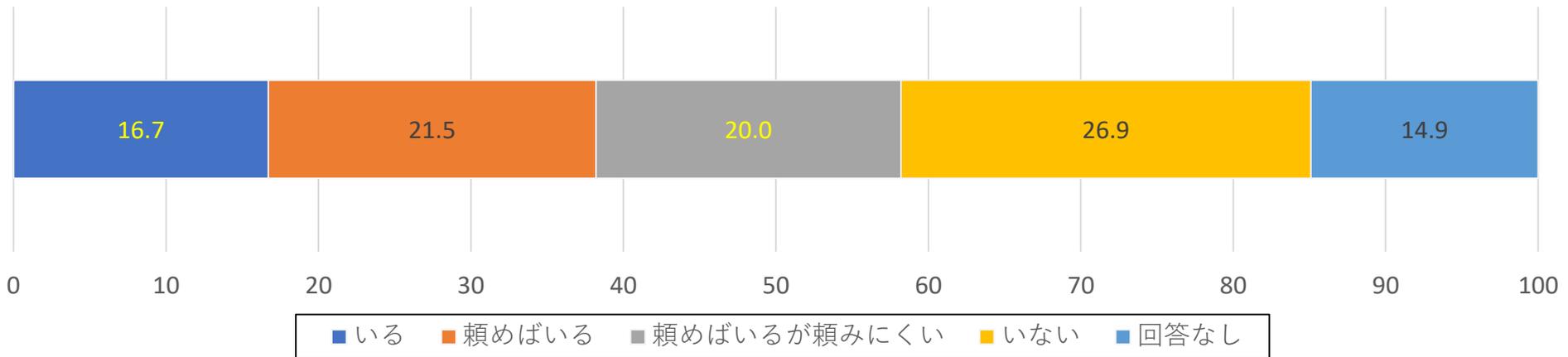


注) 本集計はケアが原因の悩みがある方（709人）に対して行われている。

5 - 5 代わりにケアを担ってくれる人の有無

- 代わりにケアを担ってくれる人の有無（N=1,022）の構成割合をみると、「いない」（N=275）が26.9%で最も高く、次いで「頼めばいる」（N=220）が21.5%、「頼めばいるが頼みにくい」（N=204）が20.0%の順であった。

図表5-5. 代わりにケアを担ってくれる人の有無の割合



	いる	頼めばいる	頼めばいるが頼みにくい	いない	回答なし
ケアラー総数 (N=1022)	171	220	204	275	152
割合 (%)	16.7	21.5	20.0	26.9	14.9

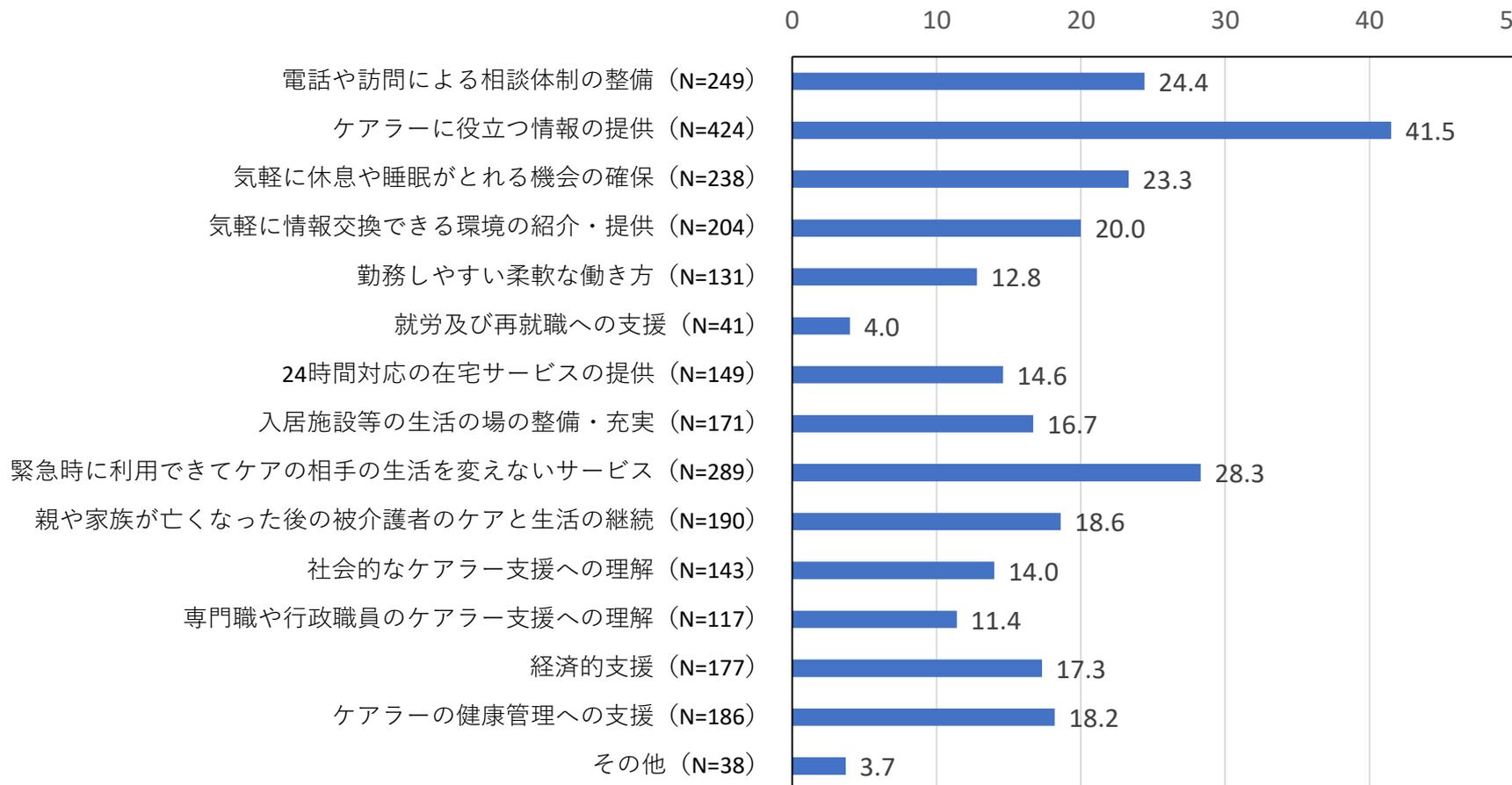
注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

5-6 ケアラーが必要と考える支援

- 必要と考える支援（N=1,022）をみると、「ケアラーに役立つ情報の提供」（N=424）が41.5%で最も高く、次いで「緊急時に利用できてケアの相手の生活を変えないサービス」（N=289）が28.3%、「電話や訪問による相談体制の整備」（N=249）が24.4%、「気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保」（N=238）が23.3%の順であった。

図表5-6. ケアラーが必要と考える支援（複数回答）

単位：%



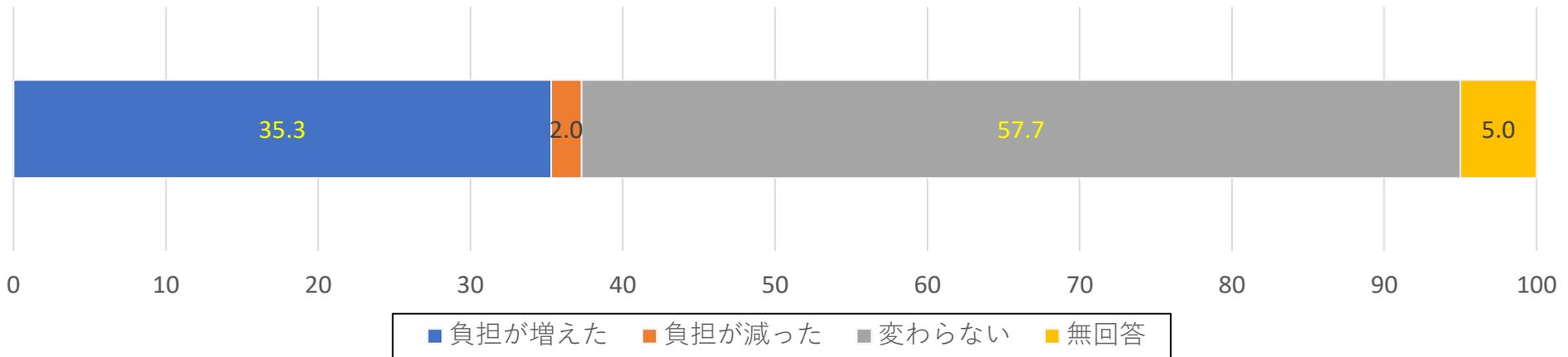
注) 本集計はケアラー本人（1,022人）に対して行われている。

6 . その他

6-1 新型コロナウイルスの影響

- 新型コロナウイルスの影響（N=1,022）の構成割合をみると、「変わらない」（N=590）が57.7%で最も高く、次いで「負担が増えた」（N=361）が35.3%、「負担が減った」（N=20）が2.0%であった。

図表6-1. 新型コロナウイルスの影響の割合



	負担が増えた	負担が減った	変わらない	回答なし
ケアラー総数 (N=1022)	361	20	590	51
割合 (%)	35.3	2.0	57.7	5.0

注) 本集計はケアラー本人 (1,022人) に対して行われている。

6-2 悩み、行政や関係機関への要望、新型コロナウイルスの影響で特に困ったこと（自由意見）

- ケアラーにとっての悩み、行政や関係機関への要望、新型コロナウイルスの影響で特に困ったことについて、主な意見は以下のとおりであった。

- グチを聞いて欲しい。批判ではなく、肯定して欲しい。
- 介護者サロン、カフェは初めて聞く言葉でした 同じように介護を生活の中心としている人達と情報交換は貴重だと思います。
- ケアラー同士で情報交換ができる機会があると良いと思います。
- 今の状態を悪化させない様、本人が健康管理に意欲的になれるよう、運動、食事、生活について、指導が受けられる(定期的に)サービスがあれば、良いと思います。家族が本人に言うのと、専門家が言うのとでは、説得力が違うと思います。
- 脚の不自由な実父を別居にてケアしています。災害時避難のための優先的支援リストなどを作成して頂きたいです。または玄関先に貼るステッカーなどで周知されることで近隣の方にも声かけ、支援して頂けるとありがたいです。
- ケアラー同士で情報交換ができる機会があると良いと思います。
- もしもの場合私に代わって母の支援を出来る人はいません。家族会やサロンは母のことを知らないので、一方通行であり精神的な負担の軽減は、あまり期待できません。参加する時間ありません。介護事業所の負担軽減や処偶を改善して頂き、介護者の話しも聞いてもらえる介護、医療のサービスの充実を希望します。
- 最重要な移動手段の安価でかつ、24時間の確保できるものが必要。
- 認知症を診てもらう病院探しに苦労した。病院で認知症について相談しやすい環境になると嬉しい。
- 新型コロナウイルスの長期化により、被介護者のストレスが増え、対応が大変な時がある、精神的疲労も増える。